

横浜市立 並木第四小学校

学校評価報告書

(平成28～30年度)

重点取組分野	平成28年度		総括	重点取組分野	平成29年度		総括	重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	○重点研の研究テーマを「互いのよさを認め合い、生き生きと学び合う子を目指して」と設定し、算数科を中心に、言語活動を充実させた授業展開を工夫することで、豊かな思考力を身につけるようにする。 ○少人数指導やチームティーチングを効果的にを行い、児童の学びのサイクルを確立する。	○教師は児童に身に付けさせたい内容を絞り、具体的な手立てをよく工夫して授業に臨むことができた。児童が算数用語を駆使して話し合うことに関しては、まだ改善の余地があった。少人数指導やチームティーチングは児童の実態に応じて柔軟にできた。	B	確かな学力	○重点研の研究テーマを「互いのよさを認め合い、生き生きと学び合う子を目指して」と設定し、理科と特別の教科 道徳を中心に、言語活動を充実させた授業展開を工夫することで、豊かな思考力があつた。少人数指導やチームティーチングは児童の実態に応じて柔軟にできた。 ○毎時間のめあての設定と振り返りの充実を図り、児童の学びのサイクルを確立する。	○本年度は、理科と特別の教科 道徳を中心に教師は児童に身に付けさせたい内容を絞り、具体的な手立てをよく工夫して授業に臨むことができた。児童が理科用語を用いて話し合ったり、自分の思いを相手にしっかりと伝えたりすることには、まだ改善の余地があった。算数科では、これまで研究してきた学びのサイクルが定着しつつある。	B	確かな学力	○重点研の研究テーマを「互いのよさを認め合い、生き生きと学び合う子を目指して」と設定し、外国語科、社会科、生活科、体育科を中心に、言語活動を充実させた授業展開を工夫することで、豊かな思考力を身につけるようにする。 ○毎時間のめあての設定と振り返りの充実を図り、児童の学びのサイクルを確立する。		
豊かな心	○認め合う・高め合う学年・学級経営の充実を図り、学年・学級の目標と目標達成に向けた具体的な手立てを提示する。 ○たてわり活動を充実させ、全校遠足やたてわり給食などを行い、異年齢でのつながりを深める。	○人権教育、特別活動などの活動を通して、認め合う人間関係づくり、学年・学級経営や学級目標達成に向けた取り組みが進められた。互いの情報交換によって学級による違いを減らしていきたい。 ○全校遠足、たてわり冬まつりなどの活動を通して、異年齢でのつながりを深めてきた。より日常化の必要性がある。	B	豊かな心	○認め合う・高め合う学年・学級経営の充実を図り、学年・学級の目標と目標達成に向けた具体的な手立てを提示する。 ○たてわり活動の回数を増やして一層充実させたり、全校遠足やたてわり給食などを行ったりして、異年齢でのつながりを深める。	○人権教育、特別活動などの活動を通して、認め合う人間関係づくり、学年・学級経営や学級目標達成に向けた取り組みが進められた。互いの情報交換によって学級による違いを減らしていきたい。 ○たてわり活動の回数を増やし、異年齢でのつながりの日常化に努めたので、児童の意識が高まった。	B	豊かな心	○認め合う・高め合う学年・学級経営の充実を図り、学年・学級の目標と目標達成に向けた具体的な手立てを提示する。 ○たてわり活動を一層充実させたり、全校遠足やたてわり給食などを行ったりして、異年齢でのつながりを深める。		
健やかな体	○新体力テストの結果を体育学習へ活用し、体力の向上を図る。 ○朝の「キラキラタイム」(短縄跳び・持久走中心)で基礎体力を養う。 ○さわやかスポーツタイム(横浜市体育協会指導)や特別クラブ(スーパータッチ)などを通して、運動に親しむ資質や能力を育てる。	○新体力テストの結果を各クラスで体育学習に生かすことができた。 ○短縄跳びでは、学習カードを作成し、啓蒙に努めた。 ○継続してスーパータッチボールなどの朝練習を行ったり、地域の方々の協力を得て、さわやかスポーツを行ったりするなど、児童が進んで体を動かす機会が増えた。	A	健やかな体	○新体力テストの結果を体育学習へ活用し、体力の向上を図る。 ○朝の「キラキラタイム」(短縄跳び・持久走中心)で基礎体力を養う。 ○さわやかスポーツタイム(横浜市体育協会指導)や特別クラブ(スーパータッチ)などを通して、運動に親しむ資質や能力を育てる。	○新体力テストの結果を各クラスで体育学習に生かすことができた。 ○短縄跳びでは、学習カードを作成し、啓蒙に努めた。 ○継続してスーパータッチボールなどの朝練習を行ったり、地域の方々の協力を得て、さわやかスポーツを行ったりするなど、児童が進んで体を動かす機会が増えた。	A	健やかな体	○新体力テストの結果を体育学習へ活用し、体力の向上を図る。 ○朝の「キラキラタイム」(短縄跳び・持久走中心)で基礎体力を養う。 ○さわやかスポーツタイム(横浜市体育協会指導)や特別クラブ(スーパータッチ)などを通して、運動に親しむ資質や能力を育てる。		
児童指導	○児童、教職員、保護者、地域がそれぞれの立場で、いじめの根絶を目指す。 ○生活目標を見直し、年間を通して指導する視点を明確にする。 ○スタンダードを活用し、全教職員の共通理解を図り、組織的な指導体制を整備する。	○いじめについてアンケートや面談等による早期対応、地域との情報共有に努めた。 ○年間を通して、廊下歩行を生活目標として取り組んだ。意識は向上してきたが、まだ実践が不十分である。 ○スタンダードに基づく一貫性のある児童指導を心がけているが、実態の変化に伴うスタンダードの見直しも必要になっている。	A	児童指導	○児童、教職員、保護者、地域がそれぞれの立場で、いじめの根絶を目指す。 ○生活目標を見直し、年間を通して指導する視点を明確にする。 ○スタンダードを活用し、全教職員の共通理解を図り、組織的な指導体制を整備する。	○年間を通して、廊下歩行を生活目標として取り組んだ。児童同士で声を掛け合うなど、意識して気を付ける児童もいる。 ○スタンダードに基づく一貫性のある児童指導を心がけた。実態の変化に伴うスタンダードの見直しを行った。	A	児童指導	○児童、教職員、保護者、地域がそれぞれの立場で、いじめの根絶を目指す。 ○生活目標を見直し、年間を通して指導する視点を明確にする。 ○スタンダードを活用し、全教職員の共通理解を図り、組織的な指導体制を整備する。		
安全管理	○学校防災計画を見直し、地震発生の際の行動基準や津波発生時の対応について共通理解を図る。 ○PTA主催の「学校に泊まろう」で、保護者・地域とのふれあいや防災を意識した活動を行う。	○職員会議や運営委員会、三部会などで組織的にしっかり協議できた。 ○「学校に泊まろう」では、地域防災拠点運営委員会と連携して、防災を意識した活動を行ったり、活動を通して児童と保護者・地域とのふれあいを行ったりすることができた。	A	安全管理	○学校防災計画を見直し、地震発生の際の行動基準や津波発生時の対応について共通理解を図る。 ○PTA主催の「学校に泊まろう」で、保護者・地域とのふれあいや防災を意識した活動を行う。	○職員会議や運営委員会、2部会などで組織的にしっかり協議できた。 ○「学校に泊まろう」は、地域防災拠点運営委員会と連携して、防災を意識した活動を行ったり、活動を通して児童と保護者・地域とのふれあいを行ったりすることができた。	A	安全管理	○学校防災計画を見直し、地震発生の際の行動基準や津波発生時の対応について共通理解を図る。 ○PTA主催の「学校に泊まろう」で、保護者・地域とのふれあいや防災を意識した活動を行う。		
特別支援教育	○児童一人ひとりを丁寧に見取り、児童や保護者の願いに寄り添う手立てを構築する。 ○個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、スクールカウンセラーや外部関係機関を活用して、個々の特性に応じた指導を行う。	○支援の必要な子の見取りや指導・支援の手立てについて話し合っている。非常勤講師、支援員、ボランティアも活用し、校内支援にも取り組んできたが、ニーズに対しては不十分などところもある。 ○専任を中心にカウンセラー、地域療育センター等の機関との情報共有・交換が進められた。個別の計画にも反映できるようにしたい。	B	特別支援教育	○児童一人ひとりを丁寧に見取り、児童や保護者の願いに寄り添う手立てを構築する。 ○個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、スクールカウンセラーや外部関係機関を活用して、個々の特性に応じた指導を行う。	○支援の必要な子の見取りや指導・支援の手立てについて話し合っている。非常勤講師、支援員、ボランティアも活用し、校内支援にも取り組んできたが、ニーズに対しては不十分などところもある。 ○専任を中心にカウンセラー、地域療育センター等の機関との情報共有・交換が進められた。個別の計画にも反映できるようにしたい。	B	特別支援教育	○児童一人ひとりを丁寧に見取り、児童や保護者の願いに寄り添う手立てを構築する。 ○個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、スクールカウンセラーや外部関係機関を活用して、個々の特性に応じた指導を行う。		
地域連携	○「たてわり冬まつり」では、PTAボランティアのみならず、地域の多くの方々の力を借りて運営することで、児童が地域を基盤として生活していることを意識づける。 ○学区見守り隊やまち憩などの組織と連携を保ち、開かれた学校づくりを推進する。 ○学校支援・地域連携本部「なみよんFANくらぶ」との密な連携を図る。	○「たてわり冬まつり」は、昨年度と同様に富岡飛行倶楽部やつじクラブなどの地域の方々の教育力を活用し運営した。 ○朝の子どもの様子を気にかける見守り隊の方がいて、連携をとっている。 ○様々なボランティアを「なみよんFANクラブ」を通して地域の方々にお願いすることで、地域で子どもを育てる雰囲気がある。	A	地域連携	○「たてわり冬まつり」では、PTAボランティアのみならず、地域の方々の力を借りて運営することで、児童が地域を基盤として生活していることを意識づける。 ○学区見守り隊やまち憩などの組織と連携を保ち、開かれた学校づくりを推進する。 ○学校支援・地域連携本部「なみよんFANくらぶ」との密な連携を図る。	○「たてわり冬まつり」は、地域の方々の教育力を活用し運営した。 ○朝の子どもの様子を気にかける見守り隊の方がいて、連携をとっている。 ○様々なボランティアを「なみよんFANクラブ」を通して地域の方々にお願いすることで、地域で子どもを育てる雰囲気がある。	A	地域連携・学校運営協議会	○「たてわり冬まつり」では、PTAボランティアのみならず、地域の多くの方々の力を借りて運営することで、児童が地域を基盤として生活していることを意識づける。 ○学区見守り隊や学校運営協議会などの組織と連携を保ち、開かれた学校づくりを推進する。 ○学校支援・地域連携本部「なみよんFANくらぶ」との密な連携を図る。		
				いじめへの対応	○「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を授業や学校行事の場面で活用する。 ○児童一人ひとりの状況についての記録を作成し、校長をリーダーに、担任や各学年教諭、児童指導専任教諭からなるチームによる支援を進める。	○いじめについてアンケートや面談等による早期対応、地域との情報共有に努めた。 ○いじめや児童理解に関する研修を多く行うことで、意識が高まった。	B	いじめへの対応	○「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を授業や学校行事の場面で活用する。 ○児童一人ひとりの状況についての記録を作成し、校長をリーダーに、担任や各学年教諭、児童指導専任教諭からなるチームによる支援を進める。		
人材育成・組織運営	○校内メンターチーム、重点研究会、学年ブロック研究会の充実を図り、日々の授業改善を行い、授業力・教師力の向上に努める。 ○運営組織を3部会に分け、主幹教諭が各部会の活動を推進して学校運営を担い、マネジメント能力の向上を図る。主幹教諭のリーダーシップのもと、校務を分担した教職員一人ひとりが主体的に力を発揮できるようにする。	○授業研究を行った後の事後研究を行うようにして、授業力向上を図ることができた。 ○いじめや児童理解に関する研修を多く行うことで、意識が高まった。 ○3部会に分けて組織的に活動を推進してきたが、職員数の減少により組織的な活動としては成り立ちにくい場面もあった。	A	人材育成・組織運営	○校内メンターチーム、重点研究会、学年ブロック研究会の充実を図り、日々の授業改善を行い、授業力・教師力の向上に努める。 ○運営組織を部会に分け、主幹教諭が各部会の活動を推進して学校運営を担い、マネジメント能力の向上を図る。主幹教諭のリーダーシップのもと、校務を分担した教職員一人ひとりが主体的に力を発揮できるようにする。	○授業研究を行った後の事後研究を行うようにして、授業力向上を図ることができた。 ○2部会に分けて組織的に活動を推進してきたが、職員数の減少により組織的な活動としては成り立ちにくい場面もあった。	B	人材育成・組織運営	○校内メンターチーム、重点研究会、学年ブロック研究会の充実を図り、日々の授業改善を行い、授業力・教師力の向上に努める。 ○運営組織を部会に分け、主幹教諭が各部会の活動を推進して学校運営を担い、マネジメント能力の向上を図る。主幹教諭のリーダーシップのもと、校務を分担した教職員一人ひとりが主体的に力を発揮できるようにする。		
ブロック内相互評価後の気付き	○5校ブロックの共通テーマである「聴く力」の育成について、工夫している様子が見られる。今後も、学習課題を工夫したり、子どもの言葉を引き出したりするような授業を展開し、話し手の話の内容をよく聞くようにしたい。 ○あいさつ活動が推進され、あいさつがしっかりと行っていた。			ブロック内相互評価後の気付き	○5校ブロックの共通テーマである「聴く力」の育成について、授業内で工夫している様子が見られる。今後も、学習課題を工夫したり、子どもの言葉を引き出したりするような授業を展開し、話し手の話の内容をよく聞くようにしたい。 ○あいさつ活動が推進され、外部の人が廊下ですれ違ってもあいさつがしっかりと行っていた。			ブロック内相互評価後の気付き			
学校関係者評価	○学校としてある程度自信をもってやっていることが成果である。客観的に見て、学校の活動が活発に動いている。 ○運動会のリレーの練習でも、上級生が下級生の面倒を見るなどたてわり活動の素地がある。 ○子どものいじめに対する意識が変わってきている。子どもの対応も教師の対応もよくなっていると考えられる。 ○学校と地域が連携して子どもを育てているように見受けられる。			学校関係者評価	○重点取り組み分野が多すぎて、本来の重点項目が見えにくい。項目数を減らしてもよい。また、少人数校への加配があれば、事務仕事量が減り、教職員にも余裕が生まれ、いじめにも対応しやすい。 ○割とスムーズに学校運営がなされているように感じる。行事を含めいろいろなことをしている。FANクラブを筆頭にボランティアにもっとお願いするとよい。保護者にも協力を求めていくべき。 ○いじめについては、耳に入ってくることもあるが、話を聞くと「いじめ」とは言えないと思われることが多い。話をよく聞き、ストレスにつぶされぬ子を育てることが大切だ。また、セクシャルマイノリティについても考えてほしい。			学校関係者評価			
学校経営中期取組目標振り返り	○子ども・教職員・保護者・地域が一体となった行事が運営されている。「豊かな人間関係」をつくるために、コミュニケーション力の育成を重視した授業展開も行われた。今後もさらに授業力の向上を図りたい。 ○「わかる」「できる」ことの楽しさを味わうための具体的な手立てを工夫した授業ができた。基礎・基本の確実な習得ができるよう学習展開の工夫を図りたい。 ○健やかな体を育むような手立てを考え、実践してきた。児童が進んで体を動かす姿が見られた。			学校経営中期取組目標振り返り	○子ども・教職員・保護者・地域が一体となった行事が運営されている。「豊かな人間関係」をつくるために、コミュニケーション力の育成を重視した授業展開も行われた。今後もさらに授業力の向上を図りたい。 ○「わかる」「できる」ことの楽しさを味わうための具体的な手立てを工夫した授業ができた。学びタイムの力も大きい。算数検定では、受験者が全員合格することができた。今後も基礎・基本の確実な習得を図りたい。 ○「いじめ」「いじめられ」は子どもによって受け取り方が違うが、校内研修やいじめ防止対策委員会などを通して早い段階での対応ができるようにしていく。また、セクシャルマイノリティ等への対応も検討していく。			学校経営中期取組目標振り返り			